

平成 26 年度 事業報告

社会福祉法人シルヴァーウィング

練馬若年認知症サポートセンター

はじめに

若年性認知症に特化した専門性の高いデイサービスを展開し、利用者に対しきめ細かい介護サービスを提供していくことで、在宅生活が維持できるよう支援した。

若年性認知症への理解と普及・啓発活動を行い、利用者及び家族が地域社会の中で安心した生活が出来るような環境の確立に努めた。

利用者へは、同じ目線での話しかけを心がけたケアを実践した。

重点事項

①若年性認知症専門のデイサービスの質の向上に努め QUALITY の高い事業展開を行った。

- ・ 同じ目線で話しかけ優しく触れるユマニチュードを取り入れたケアを行った。
- ・ 二つの動作を同時に行うデュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- ・ 区と連携した環境ボランティア活動を行った。
- ・ 区と連携した安全・安心見回りボランティア活動を行った。

②利用者本人および家族の抱える問題を把握し、地域と連携をとりより良いサービスに努めた。

③若年性認知症への理解と普及・啓発のために関係機関に働きかけ、取り組みを行った。

- ・ 外部家族会のシンポジウムにパネリストとして参加し、福祉の現場の取り組みについての発表を行った。

1 利用対象者

若年性認知症等 40 歳以上 65 歳未満で介護認定が要支援以上の方

2 事業内容

●通所介護事業（一般デイ、若年性認知デイ）

- (1) 利用定員 1日 7名
- (2) 利用日 月～日曜日
- (3) 利用時間 午前 9：30 ～ 午後 5：00（送迎時間含まず）
- (4) 事業実績

平成26年度も、利用率の向上と利用者一人ひとりに合ったサービスを実施、関係機関及び家族との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図ることを目標として1年間事業を行ってきた。

年間の稼働率は平均 83.12%（実績⑥）であり、目標としていた 80%を上回ることができた。

また、利用開始時より認知症の進行による在宅生活並びに介護が困難になった利用者の他施設への移行、入院（実績④）があった。

(5) サービス内容

①通所介護計画に基づくサービス提供

ケアプランに基づいた適正な通所介護計画を作成し、利用者及び家族の意向と状況把握に努め、全ての利用者がより良い在宅生活を継続できるよう支援を行った。

②健康管理

利用者の健康状態を観察・把握し健康管理及び健康指導に努め、異常の早期発見早期対応に努めた。緊急時は家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。また、感染症予防のため、手洗いやうがいの励行などの適切な対応及び対策の徹底を図った。

③食事

管理栄養士と連携をとりバランスの取れた昼食の提供をした。

また、個々の利用者の状態及び嗜好を把握し、食事内容・形態に配慮した“食”に喜びを感じられるような食事の提供を行った。

ア. 食事介助（食事状況の見守り）を行った。

イ. 嚥下状態及び食事摂取量の観察を行った。

ウ. 嚥下体操による嚥下訓練を行った。

エ. 管理栄養士による栄養指導（栄養マネジメント）を行った。

④入浴

通所介護計画に沿った、毎日入浴サービスを提供するとともに環境整備にも努め、利用者に寄り添う個別対応にて提供した。

⑤送迎

利用者個人の心身状態及び地理的状況等を考慮した送迎車両・送迎ルートを設定し、無理のない送迎サービスを提供した。また、安全第一を念頭に置いた走行、及び車両の定期的な点検・整備を行い利用者の安全確保に細心の注意を払うとともに、車両内外の清掃を徹底し、利用者が快適に乗車できるよう努めた。

ア. 乗車・下車時の介助を行った。

イ. 乗車中の状態観察を行った。

ウ. 迎え時の状態確認・送り時の状態報告を行った。

エ. シートベルト着用および車椅子固定の確認を行った。

⑥介護サービス利用時の相談

利用者および家族の心配事や、悩みへのアドバイス等、各種相談には随時受け付け、連絡帳を活用したり、個別対応を心掛け、必要に応じて担当ケアマネージャー・地域包括支援センター等と連絡調整を行い、利用者の在宅生活を支えるとともに、家族の介護負担の軽減を図った。

ア. 生活相談等、各種相談は随時受け付け、対応した。

イ. 在宅での介護方法についての相談・助言を行った。

ウ. 家族会を企画し、開催した。(5回開催)

エ. その他指定通所介護に係る必要な相談援助を行った。

⑦活動(レクリエーション等)プログラム

年間活動計画を立て、月ごとの誕生会や季節の行事に合わせたレクリエーション等、利用者のニーズに合わせた企画・提供を行った。

- ・ デュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- ・ 区と連携した環境ボランティア活動(風景①②)を行った。
- ・ 区と連携した安全・安心見回りボランティア活動(風景③)を行い、「防犯・防火パトロールフェア」のパネル展(風景④)に活動内容を発表した。
- ・ 関町南三丁目区民農園で農芸活動(風景⑦⑧)を行った。
- ・ 毎週木曜日配食ボランティア活動に参加し、地域の高齢者の見守りを行った。
- ・ 区民体育館にてスポーツを楽しんだ。

表1 年間活動計画

実施月	内容	日程	手作り会食	実施場所
4月	お花見会	上旬		近隣公園
	春のお茶会	隔週木曜日	和菓子	サポートセンター内
5月	GWお食事会	上旬	巻き寿司	サポートセンター内
	江戸かつぼれ観賞会	28日		サポートセンター内
6月	オカリナ演奏会	10日		サポートセンター内
	区役所福祉まつり見学	12日		練馬区役所
7月	七夕まつりおたのしみ会	5~7日	ちらし寿司	サポートセンター内
	納涼会	下旬	駄菓子	サポートセンター内
8月	清瀬ひまわりフェス	23日		清瀬市下清戸
	東大農場ひまわり祭り	29日		東大農場
9月	井草八幡祭り	30日		井草八幡宮
	おたのしみおやつ会	26・27日	ホットケーキ	サポートセンター内
10月	ハロウィンおやつパーティ	下旬	マシュマロポッキー	関町南農園
	秋のお茶会	隔週木曜日	和菓子	サポートセンター内
11月	赤い羽根駅前募金活動	9・10・20日		上石神井駅前
	井の頭公園紅葉散策	下旬		井の頭公園
12月	ブリジストン工場見学	18日		小平市
	クリスマス会	24・25日	パウンドケーキ	サポートセンター内
1月	初詣神社めぐり	上旬		田無神社等
	オカリナ演奏会	15日		サポートセンター内
2月	バレンタインデーおやつ会	11~13日	チョコフォンデュ	サポートセンター内
	大正琴演奏会	26日		サポートセンター内
3月	江戸かつぼれ観賞会	3日		みさよはうす
	ホワイトデーおやつ会	12・13日	チョコたこ焼き	サポートセンター内

⑧要介護認定の申請の手続きをアドバイス

初めての、要介護認定の申請手順の相談にのり、アドバイスをを行った。
また、本人・家族での「申請」が難しい場合申請手続きの支援を行った。

⑨機能訓練

ADL（日常生活動作）の向上を目指し、週1回理学療法士による機能訓練を実施した。

⑩自治体や各関係機関との連携

地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、福祉協議会、福祉事務所、区環境課および安全安心担当課、地域自治会等との連携に努め、常に適切なサービスを提供できるような体制づくりを心掛けた。

●配食サービス事業（まごころ弁当）

デイサービス利用者、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を対象に、健康状態の確認等安否確認を兼ねて、配食サービスを行った。

価格 1食190円

実績 約130食/月

(6) 運営管理

①職員運営会議

月一回運営上の諸問題を検討及び事業・研修の計画を立てた。

②サービス調整会議

利用者のサービス等に係る諸問題を月4回検討した。

③事業プランをプロジェクトチームによる実現化

- ・ オール7プロジェクト（稼働率100%を目標とするチーム）
ケアマネージャー、家族会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に働きかけ、新規利用者の開拓を行った。
- ・ 日本財団プロジェクト（福祉車両助成金申請チーム）
本年度は選考条件に見合わなかったが、来年度も引き続き申請を行う。
- ・ いまカラこれカラプロジェクト
（利用者と家族の現状と将来を検討するチーム）
家族会を開催し、利用者の家族への交流、情報・意見交換等の場を提供し、意見等を集約し、若年性認知症への理解と普及・啓発

を図るため新聞や外部家族会のシンポジウムにて発信した（風景⑨）。

・ 65プロジェクト（65歳以上移行計画チーム）

当法人施設みさよはうすの協力も得て、利用中に65歳を経過した利用者については、まずは高齢者デイ等への併用利用の取り組みを進め、移行体制を整えた。

④防災管理

- ・ 利用者の安全確保のため職員に対し、消防計画の周知徹底に努めた。
- ・ 総合防災訓練を夏冬場に（年2回）実施した。

⑤保守点検、衛生管理

- ・ 設備保守点検を行った。〔毎日〕
- ・ 清掃を行った。（居室清掃、浴室清掃）〔毎日〕
- ・ 保健衛生を行った。（消毒）〔毎日〕

⑥苦情要望体制

担当者並びに常設窓口設置し、処理体制の整備を行い、真摯に受け止めるサービス体制を整えた。

⑦研 修（職場内・社外研修）

表2 研修実施状況

名称	開催日	人数	備考
認知症高齢者への介護サービスの向上をめざして	9/16	1名	杉並公会堂 講師 弁護士 高村浩
階層別職員研修 リーダー研修	1/26	2名	職場内研修(なりひらホーム) 講師 ㈱日本経営戦略人材コンサル
階層別職員研修 一般研修	1/26	2名	職場内研修(なりひらホーム) 講師 ㈱日本経営戦略人材コンサル
地域で支えあう 若年認知症	2/20	1名	練馬区役所 講師 なぎさ和楽苑 並河健司
若年認知症の 薬物療法	2/21	2名	玉川区民会館 講師 楓の森メンタルクリニック
認知症サポーター フォローアップ講座	3/6	1名	練馬区役所 講師 ㈱PAO
職場の メンタルヘルス	3/26	4名	職場内研修(みさよはうす) 講師 医師 森川すいめい

- ・ OJT
新任・現任・机上の研修を行った。
- ・ OFF-JT
都・区・その他の機関の研修へ参加し、伝達研修にて全職員へ周知した。

⑧職員定期健康診断

- ・ 職員の健康を確保、維持するため、定期健康診断を年1回実施した。
- ・ 新型インフルエンザ対応のため、予防注射を実施した。

⑨ボランティア等の受入れ

- ・ コーディネーターに当たる担当職員を決めるなど、受け入れ体制の充実を図った。
- ・ 平成26年度にボランティア募集要項を作成し、関係団体、町内会、地域住民等にボランティアの受入れをPRした。
- ・ 社会福祉協議会加入の各種ボランティアグループをはじめ、個人のボランティアなどによる活動・慰問を受け入れた。

表3 ボランティア受入れ状況

個人・グループ数	年間延人数	内容
10組	30人	江戸かつぼれ・大正琴 散歩付き添い・レク補助

⑩実習生の受入れ

実習生の受け入れには、介護に係る人材育成という社会貢献と豊かな人間性を育むことに寄与し、積極的に実習生を受入れた。

表4 実習生受入れ状況

項目	人数
教員免許取得希望者介護等体験	9人
介護職員初任者研修	1人

3 実績報告

(1) 利用者状況

① 平均年齢（平成27年3月31日現在）

表5 利用者平均年齢

性別	在籍者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	11	60.8		1	6	1	3
女性	5	63.2			2		3
全体	16	60.0	-	1	8	1	6

② 介護度（平成27年3月31日現在）

表6 利用者介護度

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援1	要支援2
男性	3	-	5	2			1
女性	2	1	1	1			
全体	5	1	6	3	-	-	1

③ 入所状況（平成26年4月～平成27年3月末）要介護1から5の利用者

表7 利用者入所状況

性別	入所人数	平均介護度	平均年齢	通所前環境			
				自宅	病院	就労	事業所他
男性	6	1.6	59.5	6	-	-	-
女性	-	-	-	-	-	-	-
全体	6	1.6	59.5	6	-	-	-

④ 退所状況（平成26年4月～平成27年3月末）要介護1から5の利用者

表8 利用者退所状況

性別	退所人数	平均介護度	平均年齢	通所日数	退所理由			
					入院	他施設入所	他事業所	その他
男性	5	1.5	64.6	128	1		4	
女性	-	-	-	-				
全体	5	1.5	64.6	128	1		4	

⑤ 障害手帳の取得状況（平成27年3月31日現在）

表10 利用者の障害手帳取得状況

性別	取得者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	6	57	-	1	3	2	-
女性	1	66	-	-	-	1	-
全体	7	58	-	1	3	3	-

⑥ 利用実績状況

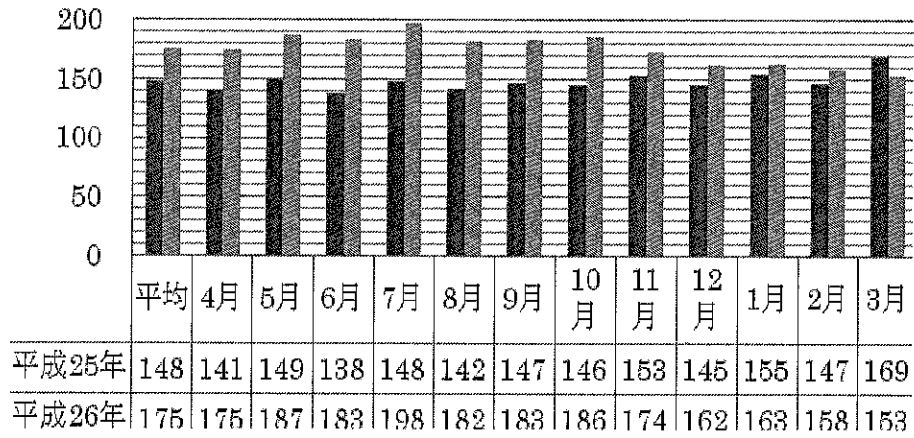


図1 利用実績

⑦ 主な活動風景

●区と連携した環境ボランティア「たばこのポイ捨て禁止」：美化活動

①



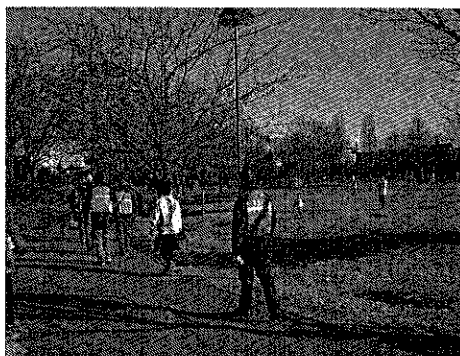
②



図2 美化運動

●区と連携した安全・安心見回りボランティア：安全・安心見守りパトロール

③



④



図3 パトロール

●レクリエーション行事：ボランティア団体による芸能鑑賞・体験

⑤「江戸かつぼれ」

⑥「大正琴」

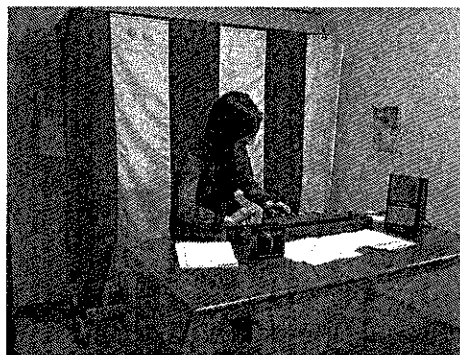
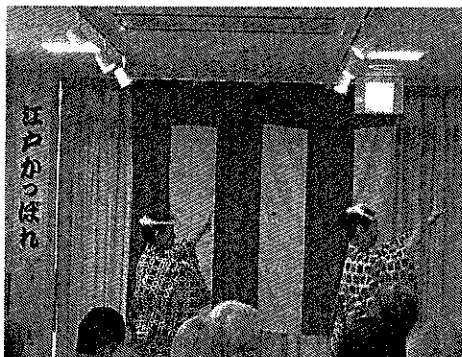


図4 芸能鑑賞・体験

●農芸活動：種まき、収穫作業（練馬区関町南三丁目区民農園）

⑦

⑧



図5 農芸活動

●いまカラこれカラプロジェクト：外部家族会のシンポジウムでの発表内容（一部）

⑨

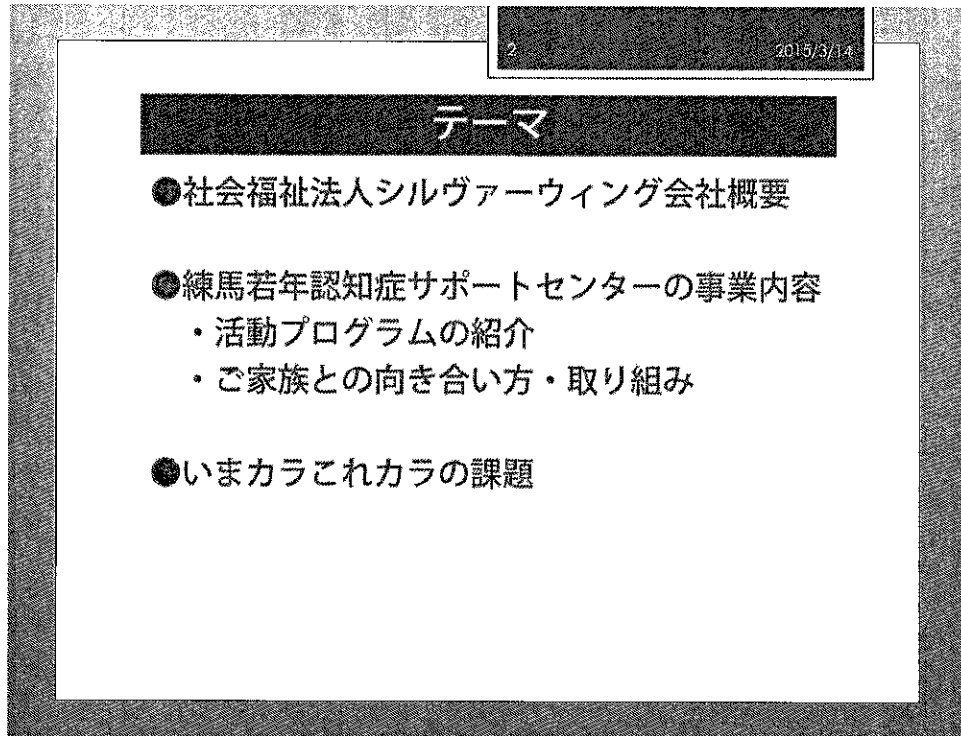
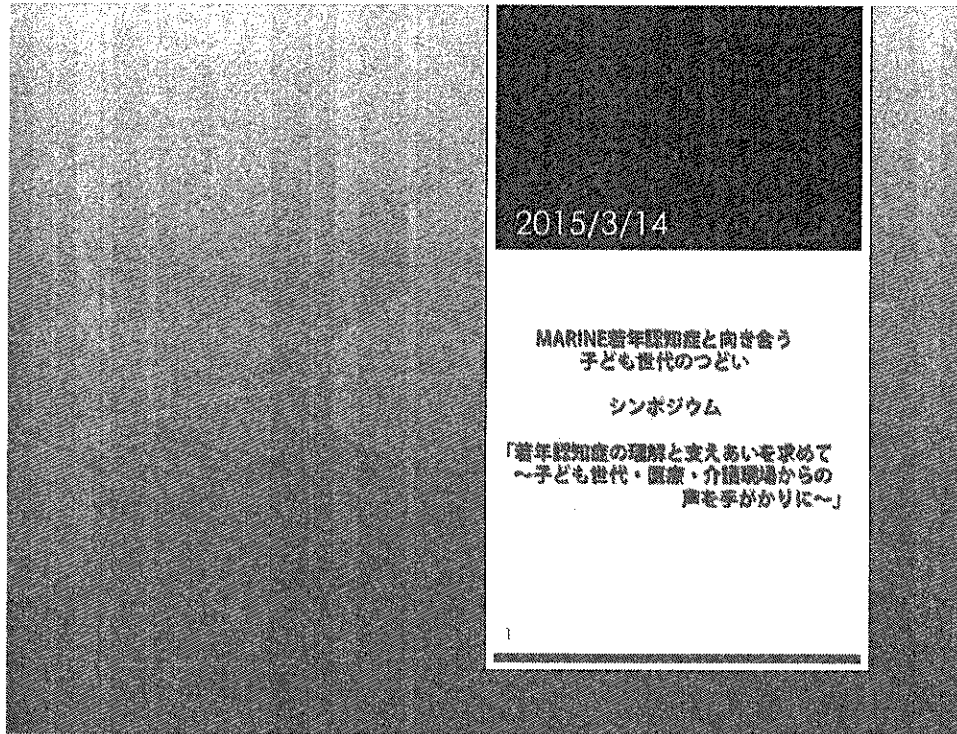


図6 外部家族会のシンポジウムでの発表